

平成29年度

事業報告書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

公益財団法人日本デザイン振興会

①グッドデザイン賞事業

2017年度のグッドデザイン賞事業は、永井一史氏が審査委員長、柴田文江氏が審査副委員長を務める3年目として、「デザインの背後にある配慮や美意識に着眼する」という方針のもと、「発見・共有・創造」の循環をベースに事業を推進した。また2015年度に創設した「フォーカス・イシュー」をより深化させ発信をするとともに、受賞展を中心に社会とのコミュニケーション活動を強化した。

応募と受賞

2017年度グッドデザイン賞は4月5日から募集を開始して、4,495件のデザインに対して審査を行い、10月4日に1,403件の受賞を発表した。また11月1日にグッドデザイン大賞、金賞、特別賞各賞を発表した。

審査対象数：4,495件

受賞数：1,403件

受賞企業数：958社

※東日本大震災復興支援特例措置枠での受賞：27件（福島県、宮城県、岩手県に本拠を置く応募者に対する費用免除などの措置を実施）

※海外デザイン賞連携による受賞：29件（賞連携を行っているタイ、インド、シンガポール、トルコのデザイン賞受賞対象からグッドデザイン賞への応募による受賞）

※受賞発表後に、受賞の取り消しが計3件発生した。

審査体制

多様な応募対象を適切に審査するために、2017年度も様々な領域の専門家を新たに迎えて総勢82名の審査体制を整えた。さらに、二次審査会における外国人のゲスト審査委員を増員し、グローバルな観点からのデザイン評価と共通理解を促すことにも務めた。

フォーカス・イシュー

「フォーカス・イシュー」は、デザインの領域から社会課題に対する働きかけを行い、今後の社会におけるデザインの役割と可能性を見出す取り組みである。3年目となる2017年度は、過去2年の内容を踏まえて制定した8つのフォーカス・イシューに対して、フォーカス・イシュー・ディレクターが受賞デザインの言説化に取り組み、受賞展では一般向けにわかりやすいパンフレットを、また年度末には提言集を発刊した。

■2017年度フォーカス・イシューおよびディレクター

共生社会の構築：伊藤香織（都市研究者）

社会基盤の進化：ドミニク・チェン（情報学研究者）

ローカリティの育成：岩佐十良（クリエイティブディレクター）

安心の創出：青山和浩（システム工学研究者）

学びの充実：藤崎圭一郎（デザイン評論家、編集者）



GOOD
DESIGN



グッドデザイン賞二次審査会



グッドデザイン賞受賞祝賀会

働き方の改革：林千晶（プロジェクトマネージャー）
生活価値の発見：吉田龍太郎（プロデューサー）
先端技術の応用：内田まほろ（キュレーター）

賞

2017年度の賞の種類と受賞数は以下のとおり。

グッドデザイン賞：1,403件
グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）：1件
グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）：19件
グッドデザイン特別賞【未来づくり】（経済産業省商務情報政策局長賞）：6件
グッドデザイン特別賞【ものづくり】（中小企業庁長官賞）：11件
グッドデザイン特別賞【地域づくり】（日本商工会議所会頭賞）：3件
グッドデザイン特別賞【復興デザイン】（日本デザイン振興会会長賞）：5件

グッドデザイン・ベスト100

すべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、特に高い評価を得た100件が「グッドデザイン・ベスト100」。グッドデザイン大賞や金賞などの候補になるとともに、今後の各分野のデザインを先導するベンチマークとなりうるデザインに位置づけられている。

グッドデザイン大賞

グッドデザイン大賞は、すべての受賞デザインの中から1件が選ばれ、テーマ性・時代性・社会性などの面でその年度のシンボルデザインに位置付けられる。2017年度は10月4日に7件のグッドデザイン大賞候補を発表し、GOOD DESIGN Marunouchiで開催した大賞展での一般による投票と、11月1日にグッドデザイン賞の審査委員と受賞者による投票を実施して、各票を合算した結果、「カジュアル管楽器 Venova」に決定した。

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞は、ユーザーから長年にわたり支持されることで将来にわたって生活の質を築く価値を持ったデザインを讃えるとともに、よいものを長く使い続けることの意義を社会に示す賞である。2017年度はユーザーやデザイナーなどにより推薦されたデザインの中から、審査委員会による審査を実施した結果、25件が受賞した。



グッドデザイン賞二次審査会



フォーカス・イシュー・ディレクターによるプレゼンテーション



グッドデザイン・ベスト100選考会



受賞発表記者会見



2017年度グッドデザイン大賞 カジュアル管楽器 Venova

受賞展

グッドデザインエキシビション2017

受賞プロモーションの中核企画として、2017年度グッドデザイン賞受賞デザイン全件の紹介を中心に、「グッドデザイン・ベスト100」特別展示、受賞数ランキング上位企業によるスーペリアカンパニー展示などをはじめ、ベスト100選出デザイナーの公開プレゼンテーションやフォーカス・イシュー・トークなど、多面的なプログラムを開催した。また、野原産業の協力により「GOOD DESIGN STORE by NOHARA」のポップアップショップを期間中に展開し賑わいを醸した。

会期：11月1日～11月5日

会場：東京ミッドタウン

来場者数：21,162名（ミッドタウン・ホール、カンファレンスのみ／1日平均4,232名）

来街者数：252,586名（オープンスペース含む／1日平均50,517名）



みんなで選ぶグッドデザイン大賞展

グッドデザイン大賞候補7件の紹介と、来場者による一般投票を会期中に実施した。

会期：10月4日～28日

会場：GOOD DESIGN Marunouchi

来場者数：2,969名



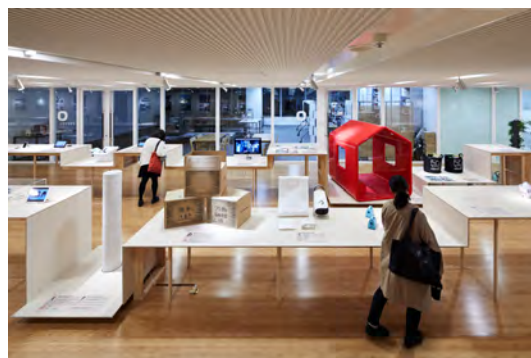
私の選んだ一品2017展

グッドデザイン賞審査委員のお気に入り最新受賞作＝「一品」を、書き下ろしのコラムとともに紹介した。

会期：10月4日～27日

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ

来場者数：4,760名



グッドデザイン賞における復興支援

2011年度からの東日本大震災復興支援特例措置を継続し、岩手県、宮城県、福島県を本拠とする事業者からのグッドデザイン賞応募に要する費用などを無償にしている。2017年度は対象地域から27件がグッドデザイン賞を受賞した。また、2016年に熊本地震が発生したこともあり、グッドデザイン特別賞[復興デザイン]は贈賞範囲を各種の復興に広げ、5件が選ばれた。

応募説明会・セミナー

グッドデザイン賞の理念や応募情報に関する説明会を、4月から5月にかけて国内15地点で計26回実施した。新潟や京都ではグッドデザイン賞審査委員によるセミナーを行ったほか、審査の視点セミナーや審査体験ワークショップ、個別相談会なども各地で開催した。



出版

2017年度受賞デザイン全件を掲載した『GOOD DESIGN AWARD 2017』を、2018年3月に発刊した。
また、グッドデザイン賞60年記念出版として、2007年度に発刊した「Gマーク大全」に最近10年分の内容を増補して、新たに『Gマーク大全 グッドデザイン賞の60年』として2017年11月に発刊した。一般向けには書籍の販売は行わずデジタルデータでの無料閲覧体制を取っている。



『GOOD DESIGN AWARD 2017』



『Gマーク大全 グッドデザイン賞の60年』



グッドデザイン大賞・金賞・特別賞

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）

- ・カジュアル管楽器 Venova／ヤマハ株式会社

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）

- ・充電式の耳かけ型補聴器 R4シリーズ Panasonic 補聴器 WH-R47、WH-R45、WH-R43／パナソニック株式会社
- ・漢字ドリル うんこ漢字ドリル／株式会社文響社
- ・永代供養墓 &(安堵)／手紙寺 證大寺
- ・タンブラー フィーノ／東洋佐々木ガラス株式会社
- ・air conditioner Smartmi Full DC Inverter Air-Conditioner／SMARTMI Limited
- ・ワイヤレスノイズキャンセリングヘッドホン MDR-1000X／ソニー株式会社＋ソニービデオ&サウンドプロダクツ株式会社
- ・4K有機ELテレビ ブラビア A1シリーズ／ソニー株式会社＋ソニービジュアルプロダクツ株式会社
- ・スマートプロダクト Xperia Touch／ソニー株式会社＋ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社
- ・クルーズトレイン TRAIN SUITE 四季島／東日本旅客鉄道株式会社
- ・自動車 Tesla Model X／テスラモーターズ ジャパン
- ・大型トラック 日野プロフィア／日野自動車株式会社
- ・顕微鏡 超解像蛍光顕微鏡／シスメックス株式会社
- ・リードスペースメカ Micra 経カテーテルペーシングシステム／日本メトロニクス株式会社
- ・乾式オフィス製紙機 PaperLab A-8000／セイコーエプソン株式会社
- ・商店街アーケード 福山市本通・船町商店街アーケード改修プロジェクト -とおり町Street Garden-／UID＋福山本通商店街振興組合＋福山本通船町商店街振興組合＋NPOわくわく街家研究所＋福山市＋福山商工会議所＋大和建設株式会社＋中国電力株式会社＋鹿島道路株式会社＋株式会社松誠園緑地建設＋株式会社マツダ金属製作所
- ・中学校 陸前高田市立高田東中学校／株式会社SALHAUS
- ・音楽レーベル INDUSTRIAL JP／株式会社由紀精密＋株式会社電通＋株式会社電通クリエイティブX＋DELTRO INC.
- ・ニュースコンテンツ 日経ビジュアルデータ／株式会社日本経済新聞社
- ・生産者支援プラットフォーム SEND（センド）／プラネット・テーブル株式会社

グッドデザイン特別賞【未来づくり】（経済産業省商務情報政策局長賞）

- ・車載向け高精細ワイドディスプレイシステム Panasonic 高精細ワイドディスプレイミラーレスモニターシステム／パナソニック株式会社
- ・スマートパーキング Smart Parking Peasy／株式会社NTTドコモ
- ・無縫製ニットウェアシステム ホールガーメント／株式会社島精機製作所
- ・音楽教育法 ボーカロイド教育版と関連教材を用いた新しい「創作／歌づくり」／ヤマハ株式会社
- ・障がい者雇用制度 ショートタイムワーク制度／ソフトバンク株式会社
- ・ユニバーサルレイアウト ユニバーサル外来／社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院

グッドデザイン特別賞【ものづくり】（中小企業庁長官賞）

- ・フセン テープノフセン／ヤマト株式会社
- ・散水ノズル タフギアフックノズル／株式会社タカギ
- ・キャンドル 倉敷製蠟 CARD CANDLE／ペガサスキャンドル株式会社
- ・炊飯器 バルミューダ ザ・ゴハン／バルミューダ株式会社
- ・炊飯器/調理器 バーミキュラ ライスポット／愛知ドビー株式会社
- ・壁用コンセント UCWシリーズ／株式会社寺田電機製作所
- ・名刺 LIMEX（ライメックス）名刺／株式会社TBM
- ・照明器具 ModuleX60／株式会社モデュレックス

- ・チョコレートブランド Minimal -Bean to Bar Chocolate-（ミニマル）／株式会社Bace
- ・活動 さんち ～工芸と探訪～／株式会社中川政七商店
- ・にんじん こいぐれない／NKアグリ株式会社

グッドデザイン特別賞【地域づくり】（日本商工会議所会頭賞）

- ・福祉施設 B's・行善寺/社会福祉法人佛子園+株式会社五井建築研究所
- ・地域のよろず相談所（主に医療） 暮らしの保健室／NPO法人白十字在宅ボランティアの会
- ・地域イベント 函館西部地区バル街／函館西部地区バル街実行委員会

グッドデザイン特別賞【復興デザイン】（日本デザイン振興会会長賞）

- ・仮設住宅団地 御船町東小坂仮設団地／ボランタリー・アーキテクト・ネットワーク+熊本大学 田中智之研究室+慶應義塾大学SFC 坂茂研究室
- ・広告 ちょうどの高さ／ヤフー株式会社
- ・マーケット ゆりあげ港朝市／ゆりあげ港朝市協同組合+針生承一建築研究所+セルコホーム株式会社+関上復興支援研究者チーム
- ・熊本城復興に向けた募金の仕組み 熊本城 組み建て募金／サクラパックス株式会社
- ・バッグ ブルーシードバッグ／一般社団法人BRIDGE KUMAMOTO

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞（日本デザイン振興会会長賞）

- ・帽子 学童通学交通安全帽子／林八百吉株式会社
- ・ゴム長靴 ウロコ印白底付大長（白ウロコ）／有限会社伊藤ウロコ
- ・携帯用カイロ ホカロン／株式会社ロッテ
- ・トート・バッグ ポート・アンド・トート・バッグ／エル・エル・ビーン インターナショナル
- ・ラベリアマイクロホンシリーズ ECM-88/77/66/55/44/166／ソニー株式会社
- ・レンズ付きフィルム 写ルンです／富士フイルム株式会社
- ・アウトドア用シングルバーナー スポーツスター／コールマン ジャパン株式会社
- ・電波修正機能付掛時計 セイコー パワーデザインプロジェクト スタンダード アナログ掛時計／セイコークロック株式会社
- ・フラワーベース、花器 ホルムガード／有限会社スコープ
- ・万年筆 キャップレス／株式会社パイロットコーポレーション
- ・水性ペン ブラマン／ぺんてる株式会社
- ・カッターナイフ エヌティーカーター プロ AD-2P／エヌティー株式会社
- ・神戸ノート 関西ノート B5学習帳／関西ノート株式会社
- ・MPバインダー バインダーMP／コクヨ株式会社
- ・フォント イワタUDフォント／株式会社イワタ
- ・チューインガム キシリトールガム／株式会社ロッテ
- ・一般用医薬品（鎮咳去痰薬） 固形浅田飴／株式会社浅田飴
- ・マヨネーズ キューピー マヨネーズ／キューピー株式会社
- ・ディスペンパック ディスペンパック／株式会社ディスペンパックジャパン
- ・Tableware littala Teema／Fiskars Asia Pacific Limited
- ・電気ケトル ラッセルホブス カフェケトル7410JP／株式会社大石アンドアソシエイツ
- ・ポップアップトースター ラッセルホブス クラシックトースター13766JP／株式会社大石アンドアソシエイツ
- ・座椅子 座イス S-5046／株式会社天童木工
- ・第一種原動機付自転車（3輪） ジャイロキャノピー・ジャイロX／株式会社ホンダモーターサイクルジャパン
- ・歩行者天国 中央通り（銀座地区）歩行者天国／一般社団法人銀座通連合会+警視庁築地警察署

審査委員長メッセージ

本日、2017年度のグッドデザイン賞を発表しました。受賞1,403点のデザインを手がけられた皆様に心よりお祝いを申し上げます。今回のグッドデザイン賞には、この30年間で最も多くの応募が寄せられました。それだけに、受賞デザインのジャンルや方向性が多岐に富むのがグッドデザイン賞の大きな特徴ですが、最近では共通したひとつの傾向がみられるようになってきました。それは、日本や世界におけるさまざまな社会課題を意識したデザインが明らかに増えていることです。グッドデザイン賞としても、フォーカス・イシューに代表される、社会に対してメッセージを示す取り組みを3年前から着手して、それに対する共感の声をさまざまな方面からいただくことが増えました。

「デザインには社会の課題を解決できる力がある」そのような意思を持った方が、デザインを活用したり、自分たちの活動それ自体のあり方や進め方をデザインとして見立てることで、目標をよりよく達成していこうとする意欲的な動きが、今年の実賞結果にも多くみられます。デザインが持つ力を社会の中で発揮していくうえで大切なことですし、新たなデザインの可能性を見つけ出ししていくという意味でも、グッドデザイン賞として積極的に支援したい傾向です。さらに、今年の実賞では、「かたちの役割」を重要なものとして考えました。これは最終的な造形として現される「形」という意味とともに、目的を持った活動が社会の共感を得て、その価値をより広めていくためには、コミュニケーションの接点となるなんらかの「表出」が重要で、その部分のクオリティがどれだけ高められているかに注目することが、デザインの役割であると考えたのです。

特に、グッドデザイン賞にはテクノロジーの進化と密接に関わるデザインが多く集まります。単に新技術の導入というだけにとどまらず、「何のための技術であるか、誰のための技術なのか」という問いかけがあることで、結果として私たちに豊かさや心地よさがもたらされるため、そうした面に対するまなざしは不可欠なものでした。

これらは、もちろんデザインを生み出す側が何より意識すべきことであるとともに、いかにそのデザインからこれからの社会に向けた豊かな可能性や、ユーザーにとってのよりよいストーリーを引き出せるのか、次へのモデルとしての規範性を認めるのか、審査する側にとっても大きく問われる部分でした。

結果として、今回受賞したデザインに対して、社会においてますます重要性を高めるテーマへの提案性や、それぞれのデザインを使う人への配慮、私たちに何かを気づかせてくれるようなひらめきなどを感じ取っていただけることを期待しています。グッドデザイン賞が問う「グッドデザイン」が、一つひとつのデザインそれ自体のよさだけを意味するのではなく、そのデザインが必要とされる状況や文脈の中で、人々のためのよさを築こうという意思を象徴するものとしてご理解いただければ幸いです。

2017年10月4日



永井一史審査委員長



柴田文江審査副委員長

審査委員会

審査委員長 永井 一史（クリエイティブディレクター） 審査副委員長 柴田 文江（プロダクトデザイナー）

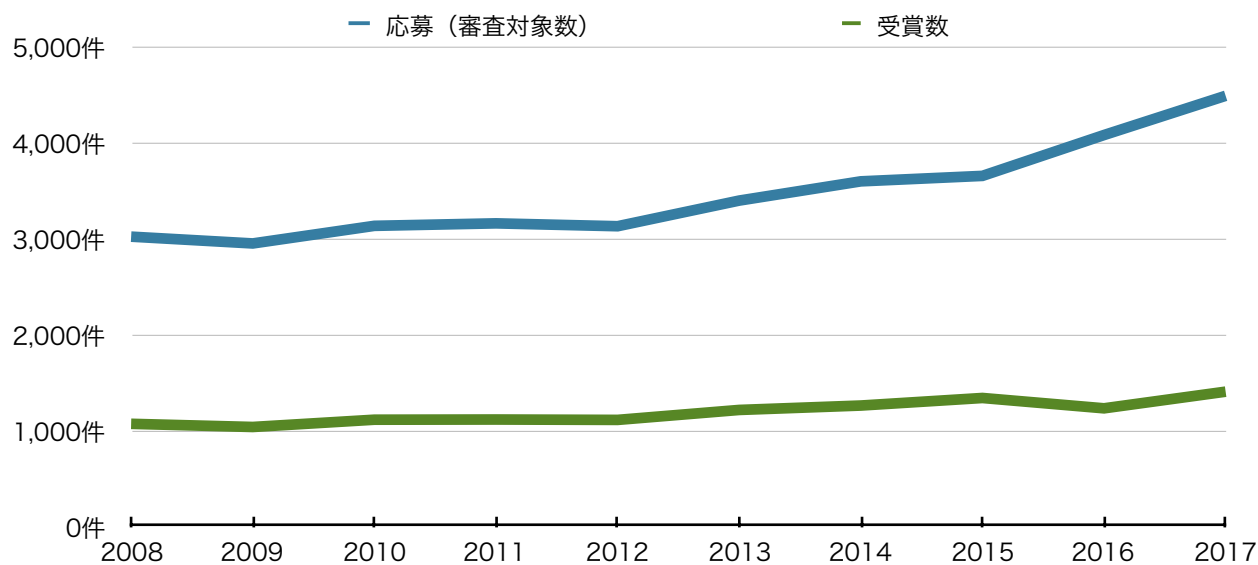
審査委員

●ユニットリーダー ○フォーカスイシューディレクター ＊海外ゲスト審査委員

ユニット01：生活プロダクト（小物類）	ユニット02：生活プロダクト（趣味・健康用品）	ユニット03：生活プロダクト（生活雑貨・日用品）
●鈴木 啓太 プロダクトデザイナー 安東 陽子 テキスタイルデザイナー・コーディネーター 原田 祐馬 アートディレクター・デザイナー 山本 秀夫 プロダクトデザイナー Jung-Ya Hsieh 発明家	●小林 幹也 デザイナー・クリエイティブディレクター 川上 典李子 ジャーナリスト 倉本 仁 デザインディレクター 松山 剛己 経営者 Carl Liu インダストリアルデザイナー	●柳原 照弘 デザイナー 池田 美奈子 編集者 松本 博子 プロダクトデザイナー みやけ かずしげ デザイナー ＊Andrew Pang プロダクトデザイナー Hui Ming Tong プロダクトデザイン研究者
ユニット04：生活プロダクト（キッチン・家電）	ユニット05：情報機器	ユニット06：家具・住宅設備
●中坊 壮介 プロダクトデザイナー 玉井 美由紀 CMFデザイナー 宮崎 光弘 アートディレクター 渡辺 弘明 インダストリアルデザイナー Juhyun Eune メディアデザイナー	●緒方 壽人 デザインエンジニア 片岡 哲 プロダクトデザイナー 手槌 りか プロダクトデザイナー 林 信行 ジャーナリスト・コンサルタント Byung-wook Chin インダストリアルデザイナー	●鈴野 浩一 建築家 ○吉田 龍太郎 プロデューサー 橋田 規子 プロダクトデザイナー 原 研哉 デザイナー 藤森 泰司 家具デザイナー ＊Puvanai Dardarananda インダストリアルデザイナー
ユニット07：モビリティ	ユニット08：医療・生産プロダクト	ユニット09：店舗・公共プロダクト
●羽藤 英二 都市工学研究者 青木 俊介 ロボットエンジニア 菅原 義治 モビリティデザイナー 森口 将之 モビリティジャーナリスト ＊Hridaysh Deshpande デザイン教育者・コンサルタント	●田子 學 アートディレクター・デザイナー 安次富 隆 プロダクトデザイナー 重野 貴 デザイナー 村上 存 工学研究者	●五十嵐 久枝 インテリアデザイナー 朝倉 重徳 インダストリアルデザイナー 加藤 麻樹 人間工学研究者 寛角 光伸 プロダクトデザイナー ＊Sertaç Ersayın インダストリアルデザイナー
ユニット10：住宅	ユニット11：住宅（中規模～大規模集合住宅）	ユニット12：産業公共建築・建設工法
●手塚 由比 建築家 千葉 学 建築家 栃澤 麻利 建築家 Gary Chang 建築・インテリアデザイナー Shu-Chang Kung 建築家	●篠原 聡子 建築家 仲 俊治 建築家 西田 司 建築家	●五十嵐 太郎 建築評論家 浅子 佳英 建築家・インテリアデザイナー 遠山 正道 実業家・クリエイティブディレクター 星野 裕司 土木デザイナー 安田 幸一 建築家
ユニット13：メディア・パッケージ	ユニット14：一般・公共向けソフト・システム・サービス	ユニット15：BtoBソフトウェア・システム・サービス・取り組み
●齋藤 精一 クリエイティブ・テクニカルディレクター ○内田 まほろ キュレーター 鹿野 護 アートディレクター 木住野彰 アートディレクター・グラフィックデザイナー 水口克夫 クリエイティブディレクター・アートディレクター Aaron Nieh グラフィックデザイナー	●岡本 誠 インタラクショナルデザイン研究者 ○藤崎 圭一郎 デザイン評論家、編集者 ○ドミニク・チェン 情報学研究者 石戸 奈々子 デジタルえほん作家 深津 貴之 インタラクショナルデザイナー	●廣田 尚子 デザインディレクター ○青山 和浩 システム工学研究者 ○林 千晶 プロジェクトマネージャー 小林 茂 イノベーションマネジメント研究者 ナカムラ ケンタ 実業家・編集者
ユニット16：一般・公共向け取り組み	韓国審査ユニット	台湾審査ユニット
●上田 壮一 クリエイティブディレクター ○伊藤 香織 都市研究者 ○岩佐 十良 クリエイティブディレクター 並河 進 クリエイティブディレクター 山崎 亮 コミュニティデザイナー	●手槌 りか プロダクトデザイナー Juhyun Eune メディアデザイナー Byung-wook Chin インダストリアルデザイナー 宮崎 光弘 アートディレクター	●千葉 学 建築家 みやけ かずしげ デザイナー Aaron Nieh グラフィックデザイナー Jung-Ya Hsieh 発明家 Shu-Chang Kung 建築家
中国・香港審査ユニット	海外デザイン賞との連携応募に対する審査	ロングライフデザイン賞審査委員会
●朝倉 重徳 インダストリアルデザイナー 倉本 仁 デザインディレクター ドミニク・チェン 情報学研究者 Carl Liu インダストリアルデザイナー Gary Chang 建築・インテリアデザイナー Hui Ming Tong プロダクトデザイン研究者	手槌 りか プロダクトデザイナー 原田 祐馬 アートディレクター・デザイナー	●柴田 文江 プロダクトデザイナー 齋藤 峰明 実業家 永井 一史 クリエイティブディレクター 福光 松太郎 実業家

事業実績

グッドデザイン賞応募数、受賞数の推移



2017年度都道府県別受賞件数

北海道 4	埼玉県 25	岐阜県 10	島根県 1	佐賀県 2
青森県 5	千葉県 9	静岡県 35	鳥取県 0	長崎県 1
岩手県 7	東京都 578	愛知県 47	岡山県 3	熊本県 8
宮城県 10	神奈川県 59	三重県 3	広島県 14	大分県 3
秋田県 0	新潟県 29	滋賀県 4	山口県 2	宮崎県 0
山形県 2	富山県 9	京都府 24	徳島県 2	鹿児島県 0
福島県 12	石川県 11	大阪府 199	香川県 4	沖縄県 1
茨城県 2	福井県 11	兵庫県 20	愛媛県 0	
栃木県 3	山梨県 1	奈良県 4	高知県 2	
群馬県 3	長野県 14	和歌山県 4	福岡県 20	

2017年度海外地域別受賞件数

カナダ 2	香港 9	韓国 50	スウェーデン 2	トルコ 3
中国 75	インド 5	オランダ 7	台湾 86	イギリス 1
デンマーク 1	イタリア 4	シンガポール 2	タイ 22	アメリカ 17
ドイツ 3				

スケジュール

3月25日	グッドデザイン賞開催要綱等、ロングライフデザイン賞実施要領の公開
4月5日-5月31日	グッドデザイン賞の応募受付期間
4月5日-6月7日	ロングライフデザイン賞推薦受付期間
6月8日-28日	一次審査期間
6月16日	ロングライフデザイン賞審査対象決定
6月29日	一次審査結果通知
7月7日-9月5日	二次審査期間
8月1日-3日	二次審査会・日本
8月3日-9月3日	ロングライフデザイン賞ノミネートデザイン展
8月8・9日	二次審査会・韓国
8月10-12日	二次審査会・香港
8月16-18日	二次審査会・台湾
8月23日	グッドデザイン賞確定会、グッドデザイン・ベスト100選考会
8月24日	グッドデザイン金賞・特別賞審査会
8月30日	ロングライフデザイン賞審査会
9月6日	二次審査結果通知
10月4日	受賞発表
10月4日-28日	みんなで選ぶグッドデザイン大賞展（グッドデザイン大賞投票への一般投票）
10月4日-27日	私の選んだ一品2017
11月1日	グッドデザイン賞受賞祝賀会、グッドデザイン大賞選出、特別賞発表
11月1日	『Gマーク大全 グッドデザイン賞60年』 発刊・公開
11月1日-5日	GOOD DESIGN EXHIBITION 2017
12月7日	グッドデザイン特別賞贈賞式
2018年3月26日	受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2017』発刊



②海外事業

アメリカを発端として世界的に自国主義の潮流が渦巻く中においても、デザインの世界では、国境や領域を越えて知見を共有しようとする動きが盛んになってきている。日本の製品やサービスに対する評価は依然高く、デザインプロモーション・システムとしてのグッドデザイン賞を主軸とした国際交流プラットフォームへの参加国も2017年度でさらに増えた。こうした傾向を励みに、国際交流の促進やデザイン関連団体との協力関係構築に積極的に取り組んだ。

デザイン賞連携・運営支援

以前より賞連携を行っているタイ「デザインエクセレンスアワード」、インド「インディアデザインマーク」、シンガポール「シンガポールグッドデザインマーク」に加え、トルコ商業省とインドスリアルデザイン協会が主催する「デザイナーターキー」、およびインドネシア商業省が主催する「グッドデザインインドネシア」と、新たにデザイン賞連携と相互プロモーション協力に関する覚書を締結した。

2017年度は初めて「デザイナーターキー」受賞者によるグッドデザイン賞への応募があり、3件が受賞した。「グッドデザインインドネシア」の第1回審査会はジャカルタで行われ、15件が入賞、そのうち7件がベスト賞に選定された。審査会にはグッドデザイン賞審査委員の渡辺弘明氏に協力を得た。これらの受賞対象は2018年度グッドデザイン賞へ応募される予定である。



イタリアインダストリアルデザイン協会との調印式



グッドデザインインドネシアとの調印式

アセアンデザインセレクション

2017年度から2カ年の事業で、国際機関日本アセアンセンターとの共同プロジェクトとして「アセアンデザインセレクション」をスタートした。2017年度はアセアン加盟の10カ国を専門家とともに訪問し、コンサルテーションや企業訪問を通じて、各国の文化や社会の発展に貢献しうる39件を選定した。2018年度は、これらについてグッドデザイン賞としての審査を実施し、受賞したものは受賞展において特別ブースを設置し、展示・プロモーションを実施する予定である。

アセアン加盟国：ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム

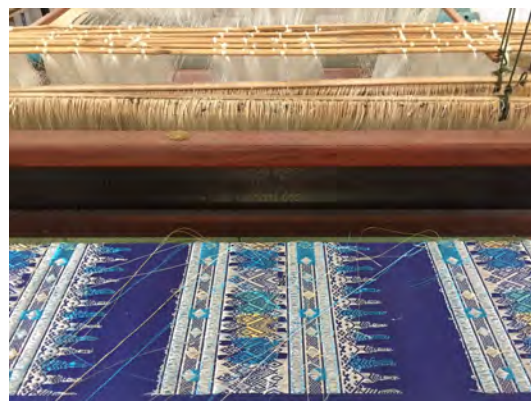


アセアンデザインセレクション選定会

交流・調印

ヨーロッパへのアクセスを確保する第一歩として、イタリアインダストリアルデザイン協会（ADI）と相互のデザインプロモーション協力に関する覚書を締結した。今後ADIの主催するコンパッソ・ドーロ・インターナショナルデザインアワードと審査委員の交換など人的交流をスタートさせる予定である。

さらに、韓国・大邱市の大邱慶北デザインセンターとも覚書を締結し、地域社会デザインの取り組みについて意見交換やプロモーション交換の実施を検討していく。



アセアンデザインセレクション選定品

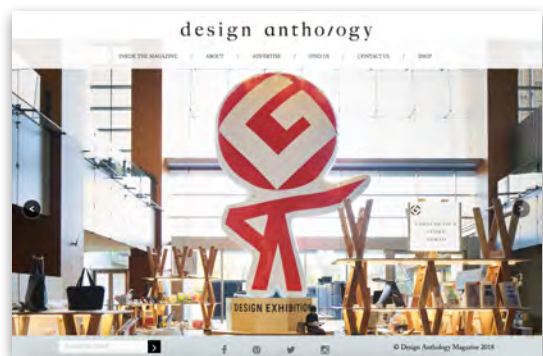
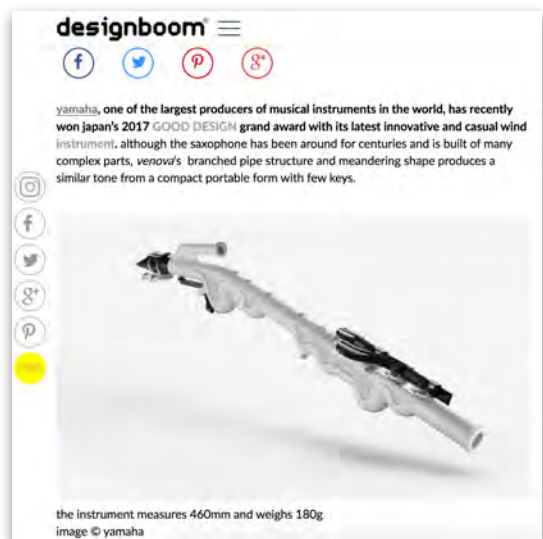
教育交流

2010年に中国・浙江大学及び千葉大学との三者間で締結した人材育成に関する連携協定に基づき、2017年11月に浙江大学にて実習を交えたデザインプロセスの集中演習授業を実施した。実施にあたっては、本年度もキヤノン株式会社総合デザインセンターの協力を得た。

インターナショナル・メディアパートナー

海外でのグッドデザイン賞に対する認知度向上を目指し、2017年度も受賞展「グッドデザインエキシビション2017」のメディアパートナーとして、下記の海外媒体6社を招聘し、受賞展と受賞祝賀会の見学、受賞デザイナーや審査委員のインタビューなどの機会を提供した。

装飾（中国）／Design Surfing（台湾）／La Vie（台湾）／
design anthology（香港）／designboom（イタリア）／
Monthly Design（韓国）



③広報事業

日本デザイン振興会では、様々なパートナーと連携しスペースを使ったプロモーション活動を積極的に行っている。2007年からは東京ミッドタウン・デザインハブを、2014年からはグッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報機会として海外でGOOD DESIGN STOREの展開を開始し、2015年からはGOOD DESIGN Marunouchiを開設し、展示会やセミナーなどを通じて様々な関与者と協働しながら、デザインが持つ社会的価値を広く訴求している。

GOOD DESIGN Marunouchi

日本国内で初となる常設型の広報拠点としてオープンしたGOOD DESIGN Marunouchiは、2017年度末で開設2年半を迎え、総来場者数は16万人を超えた。2017年度は計18の企画展と約25本のイベントを実施した。グッドデザイン賞関連では、グッドデザイン大賞の候補展示及び一般投票、ロングライフデザイン賞ノミネートデザイン展示、60周年として歴代グッドデザイン賞受賞商品の展示を実施。

また、外部企業・団体の企画・運営による展示として、様々なデザイン領域で実施されているアワードの受賞展示、海外のデザインや暮らしの視点を紹介する展示、地域の資源を生かしたデザインなどの展示会も開催した。グッドデザイン賞の発信の場に加え、日常生活や社会とデザインの関係性、接点を見出す場として、デザイン関係者、一般来場者双方の多くの方に活用される場となっている。



2017年度開催の企画展示

名称	会期	実施主体	入場者数
DESIGNING A NEW FUTURE / DFA アジアデザイン賞展示会	4/13～4/27	香港デザインセンター	1,027名
グッドデザインのテキスト	5/3～6/14	日本デザイン振興会	6,916名
NO PROBLEM展	6/20～7/17	日本デザイン振興会、VISION GLASS NO PROBLEM	6,848名
au Design project 15th Anniversary 2002-2017	7/21～7/31	KDDI株式会社	3,938名
みんなで投票! グッドデザイン・ロングライフデザイン賞ノミネートデザイン展	8/3～9/3	日本デザイン振興会	6,765名
フィリピン・デザイン展 2017	9/11～9/24	フィリピン貿易産業省	1,385名
みんなで選ぶグッドデザイン大賞	10/4～10/28	日本デザイン振興会	2,969名
GOOD DESIGN AWARD 2017 食べる グッドデザイン	11/1～11/13	日本デザイン振興会	4,187名
PVC DESIGN AWARD 2017 受賞展示会	11/16～11/26	塩ビ工業・環境協会	3,839名
ASPaC Awards 2017受賞作品展	12/5～12/10	独立行政法人国際交流基金、一般社団法人 アスパック協会	3,569名
GOOD DESIGN AWARD2017 燕三条 - TSUBAMESANJO -	12/15～12/28	燕三条地場産業振興センター	11,882名
RE:MEMBERプロジェクト -記憶を引き継ぐものづくり	1/9～1/21	日本デザイン振興会	970名
i+ 2018 EXHIBITION	1/24～2/4	日本デザイン振興会	510名
YouFab Creative Awards 2017受賞作品展展示会	2/9～2/23	FabCafe LLP	1,065名

喜多俊之「自生素材を新素材として使う」	2/26～3/11	株式会社喜多俊之デザイン研究所（企画）	651名
Gマーク大全-125のデザイン、125の物語」セクション展	3/13～3/21	日本デザイン振興会	652名
すみだ地域ブランド展	3/23～3/25	墨田区	960名
2017年度グッドデザイン大賞受賞展 Venova! Venova! Venova!	3/27～4/11	ヤマハ株式会社（企画）	2,137名



東京ミッドタウン・デザインハブ

日本デザイン振興会、日本グラフィックデザイナー協会、武蔵野美術大学デザイン・ラウンジの三者が構成機関を務めるデザイン情報の発信拠点である東京ミッドタウン・デザインハブでは、10周年を記念する合同展「東京デザインテン」の開催のほか、デザインをテーマとするセミナー、ワークショップ、トークショーなどを複合的に展開した。また2017年度から、東京ミッドタウンと共催による「東京ミッドタウン・デザイン部」をスタート。ギャラリーツアーやトークイベントを通じ、ワーカーや六本木近隣の住民に対して、気軽にデザインの視点を知れる機会を提供した。

デザインハブ企画展示

2017年度は計11企画を実施し、合計で約62,000名の来場者を記録した。10周年記念として開催した「東京デザインテン」ほか、「日本のグラフィックデザイン」「日本クラフト展」、3年目となる「地域xデザイン展」などが関心を集めた。初めて大人向けのワークショップウィークも開催するなど、様々な領域のデザインの発信の場として活用されている。

2017年度開催の企画展示

名称	会期	実施主体	入場者数
第65回企画展「東京デザインテン」	4/11～5/21	東京ミッドタウン・デザインハブ	9,765名
第66回企画展「暮らしの未来」NEXT GENERATION -インテリアデザイナー展	5/26～6/3	World Interiors Week in JAPAN 実行委員会	2,776名
第67回企画展「日本のグラフィックデザイン2017」	6/17～8/6	日本グラフィックデザイナー協会	17,464名
キッズウィーク2017	8/7～8/13	東京ミッドタウン・デザインハブ	250名
第68回企画展「JAGDA学生グランプリ2017」	8/25～9/18	日本グラフィックデザイナー協会	3,806名
第69回企画展「私の選んだ一品 2017年度グッドデザイン賞審査委員セレクション」	10/4～10/27	日本デザイン振興会	4,760名
第70回企画展「ハブとマンガース」	11/27～12/24	武蔵野美術大学デザイン・ラウンジ 武蔵野美術大学 基礎デザイン学科	4,566名

特別展「クラフトNEXT 第57回日本クラフト展」	1/7～1/15	日本クラフトデザイン協会	6,847名
冬のワークショップウィーク2018	2/1～2/11	東京ミッドタウン・デザインハブ	94名
第71回企画展「地域×デザイン2018 -まちとまちをつなぐプロジェクト-」	2/23～3/11	日本デザイン振興会	6,106名
第72回企画展「JAGDAつながりの展覧会 Part 1 マスキングテープ」	3/16～4/22	日本グラフィックデザイナー協会	6,190名



東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク 2017

東京ミッドタウン・デザインハブでは毎年8月に子供向け連続ワークショップ企画「キッズデザインウィーク」を開催している。2017年度は、企業やデザイナー、教育研究機関などが企画・運営する10件を開催。IoTをテーマにしたもの、木工によるものづくり、カメラデザイン、空間デザインなど、多様なデザイン領域をプロの指導によって体験するデザインハブならではの本格的なワークショップを行った。

2017年度実施のワークショップ

名称	会期	実施主体
スマホとつながる乾電池「MaBeee」を使って、おもちゃに魔法をかけてみよう	8/7	ノバルス株式会社
キラキラ涼しげ！水族館プレスレットをつくろう	8/7	ナマステ社
絵日記に「伝わる」タイトルをつけよう	8/8	石本香緒理
つくって、見て、知る“レンズの世界”	8/9	株式会社ニコン 映像事業部 デザイン部
粘土でオリジナル力士をつくろう！	8/9	タカハシカオリ
へんてこ・ロング・ワールド 遊んで創ろう！なが〜いカタチ	8/9	武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科
あったらいいな、こんな店	8/11	日本商環境デザイン協会
木のアクセサリ制作ワークショップ	8/11～13	はち工房 八文字雅昭
kinocca（木製おもちゃ）作りワークショップ	8/11～13	&kidea. 白濱匠太郎
葉っぱをプリントして大好きな人にお便りしよう！	8/12	ホンカグ



東京ミッドタウン・デザイン部

東京ミッドタウン・デザイン部は、東京ミッドタウン・デザインハブ10周年を記念にスタートした企画で、東京ミッドタウン・デザイン部実行委員会と東京ミッドタウンの共催による活動。東京ミッドタウンや六本木に「働く人」「住む人」「親しみのある人」、「日々の生活にデザインやクリエイティブを求める人」を対象に、①クリエイティブを仕事や生活に活かし、生き生きと暮らす事を提案する、②デザインを切り口としたサードプレイスとし、知的好奇心や文化的素養を求める人を東京ミッドタウン及びデザインハブに呼び寄せることを目的に、ギャラリーツアーやトークイベントなどを実施。2017年度は計26プログラムを実施し、延べ参加者数 524名を集めた。

2017年度実施のプログラム

名称	実施日	実施主体
2017春・六本木の桜と文化を楽しむ夜桜ツアー	4/5	日本デザイン振興会
3,776 : the digital anatomy ～富士山の解剖学～	5/17	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
六本木未来大学アフタークラス「クリエイティブな組織を作るには？」	6/26	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
”森の案内人”三浦豊氏と旅する六本木の森	6/27	日本デザイン振興会
「NEIGHBORHOOD TAIPEI」刊行記念 吹田良平氏&小路輔氏トークショー	7/13	日本デザイン振興会
タイのデザイン事情についてー百貨店、リテールビジネスのデザイン	7/14	日本デザイン振興会
「坂茂：プロジェクト・イン・プログレス」展 ギャラリーツアー	7/18	TOTOギャラリー・間、日本デザイン振興会
日本のグラフィックデザイン2017 朝のギャラリーツアー	7/27	日本グラフィックデザイナー協会
東京ミッドタウンで日本の家具・インテリアを発見する	7/27	日本デザイン振興会、インテリアテナント
サントリー美術館 「おもしろ美術ワンダーランド2017」ギャラリーツアー	8/21	日本デザイン振興会、サントリー美術館
六本木未来大学アフタークラス「人が動きたくなる言葉とは？」	8/21	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
クリエイティビティを向上するマインドフルネス体験会	9/9	One JAPAN、日本デザイン振興会
六本木未来大学アフタークラス「ファンづくりのために必要なコミュニティとは？」	9/25	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
ルツェルン・フェスティバル アーク・ノヴァ 2017 in 東京ミッドタウン ツアー&トーク	10/1	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
「私の選んだ一品」展 ギャラリーツアー	10/9	日本デザイン振興会
マグナム・フォトを映画で知る会	10/13	FUJIFILM SQUARE、日本デザイン振興会
六本木未来大学アフタークラス「あなたが提供したい”コト(体験)”を見つけるには？」	11/28	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
クリスマスイルミネーションの裏側を知る	12/6	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
「ハブとマングース」夜のギャラリーツアー	12/6	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ
en[縁]: アート・オブ・ネクサス 第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館帰国展	2/7, 3/7	TOTOギャラリー・間、日本デザイン振興会)
六本木未来大学アフタークラス「デジタル時代の”質感表現”力を身につける」	3/14	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン
2018 春・六本木の桜と緑を知る朝ツアー	3/28	日本デザイン振興会、東京ミッドタウン



インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

東京ミッドタウン・デザインハブに設けられたインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターでは、国内外のデザイン関連機関やデザイン教育機関の事業推進、各種のデザイン活動の活性化促進、デザイン人材育成支援を目的とするセミナーやシンポジウム、ワークショップなどを展開している。2017年度はデザインに関する国際的な交流および情報交換を目的とした連続企画をスタートしたほか、各デザイン領域や活動において知見を深めることを目的としたシンポジウムやセミナーなどを多く開催した。

2017年度開催の主なプログラム

名称	実施日	実施主体
World Interiors Day 国際デザインシンポジウム2017	5/27	World Interiors Week in JAPAN実行委員会
Milano Salone Description 報告会	5/31	Milano Salone Description
第51回日本サインデザイン賞二次審査会	6/23	GSデザイン会議、日本デザイン振興会
DSAデザインセミナー「デザインの動き」	6/27	日本空間デザイン協会
CD Soda「子どもたちと創るデザイン」出版記念パーティー	7/4	日本商環境デザイナー協会
NeoCon 2017 視察報告会	8/2	住商インテリアインターナショナル株式会社
コピーライター養成講座を体験してコピーを書こう！企業によるオリエンテーション	8/30	宣伝会議
DOOR to ASIA 2017	9/1	国際交流基金、一般社団法人つむぎや
2017年度 東京ビジネスデザインアワード デザイナー向け デザイン提案応募説明会	9/4	東京都、日本デザイン振興会
JAPAN BRAND FESTIVAL TALK SALOOOON Vol.03	9/27	JAPAN BRAND FES
Why Selfmade City Now!? -ブルックリン再開発の現場から 未来的都市のあり方を考える-	9/29	株式会社Granma、日本デザイン振興会
テクノロジーと感性が融合する-デザイン経営とデザインの未来-	10/6	デザインマーケティングカフェ
「エモーショナル・ビジョン」導きのデザイン ～心に響く視覚化のメソッド～	11/9	ダイヤモンド社／DMN
LAB IS THE MESSAGE 実験する精神	11/22	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
JAGDA知財権セミナー2017「シンボルマークの創作と法的保護」	11/25	日本グラフィックデザイナー協会
JAPAN BRAND FESTIVAL TALK SALOOOON Vol.05	1/30	JAPAN BRAND FES
JAGDA School 2018	2/11	日本グラフィックデザイナー協会

「インダストリアルデザインのプロフェッショナリズム」～第1回 時代と世代～ デザインの神髄はどこに宿る?～	2/16	日本インダストリアルデザイナー協会
LAMMY thinking tools.展デザイントーク「デザインの機会」	3/4	日本デザイン振興会、DKSHジャパン株式会社
「オリンピック・デザイン・マーケティング エンブレム問題からオープンデザインへ」 発刊記念トーク	3/21	日本デザイン振興会



GOOD DESIGN STORE

グッドデザイン賞では、グッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報PRとして、「GOOD DESIGN STORE」をはじめとする受賞商品を販売する店舗を香港（2017年9月で終了）、タイ・バンコク、台湾・台中にて展開している。また2017年4月末には野原ホールディングス株式会社の経営による「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」が東京駅前のKITTEにオープン、受賞展会場でも最新受賞デザインを販売する臨時店舗を開設した。

外部協力に基づく出展や販売

2017年度も前年度に引き続き、大手新聞社や百貨店などと連携して、見本市や展示会、店頭販売、オンラインショップなどを通してグッドデザイン賞のプロモーション活動を展開した。

デザイン都市・神戸 デザインのチカラ展2017

9月7日-8日 主催：神戸市 会場：神戸国際展示場

Good Over 50'sくらしのデザイン展

11月15日-28日 主催：そごう・西武 会場：西武池袋本店

商空間・住空間NEXT2018 GOOD DESIGN Biz ZONE 2018

2018年3月6日-9日 主催：日本経済新聞社 会場：東京ビッグサイト



GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA



Good Over 50'sくらしのデザイン展



GOOD DESIGN Biz ZONE 2018

PR事業

当会事業に関するメディア向け広報として、国内向けにプレスリリースを合計20回配信した（内訳：グッドデザイン賞事業関連：9回、国際事業関連：1回、GOOD DESIGN Marunouchiおよびデザインハブ事業関連：4回、地域創生事業関連：1回、東京都事業関連：5回）。

受賞発表後に、日本テレビ系「News Zero」「news every」「ZIP」での放映が行われたほか、「日経MJ」で金賞をテーマとする特集記事が掲載された。

「Pen Online」（CCCメディアハウス）では、2016年度に引き続きグッドデザイン賞特集をタイアップではなく媒体側の自主企画と

して実施。審査プロセスや受賞作の紹介に加えて、永井委員長と柴田副委員長のインタビュームービーが公開された。

インターネット学習サイト「Schoo」で2018年1月にグッドデザイン賞をテーマに講座を開講した。

毎年、当会が外部媒体と協力を結んでいる特集記事については、主要日刊紙における受賞連合広告特集が2017年11月に朝日新聞、読売新聞、日経新聞に掲載されたほか、宣伝会議「ブレーン」での特集企画も2017年12月に実施された。



デザイン都市・神戸 デザインのチカラ展2017



「News Zero」報道シーン



雑誌・新聞・ウェブでの掲載事例



④公共プロモーション事業

東京ビジネスデザインアワード

東京都が主催し、当会が企画運営を行う「東京ビジネスデザインアワード」は、東京都内のものづくり中小企業と優れた課題解決力と提案力を併せ持つデザイナーとが協働することを目的とした、企業参加型のデザイン・事業提案コンペティションで、2017年度で6回目の開催となった。ものづくり中小企業が持つ高い技術や特殊な素材をコンペティションの「テーマ」として募集・審査を経て選定し、選定された「テーマ」に対して、全国のデザイナーから新規用途開発を軸としたビジネス全体のデザインを募集する事業である。審査会によって優れた技術力を持つ中小企業と企画提案力のあるデザイナーをマッチングし、ビジネス実現化に向けた支援を行う。支援として、知財戦略・デザイン契約、広報戦略、販路開拓などを、審査委員やプロジェクトマネージャーと共に伴走型で実施した。

■スケジュール

4月20日	開催概要発表・テーマ募集
7月11日	テーマ審査会
8月16日	テーマ発表・提案募集
11月7日	提案一次審査
11月20日	提案二次審査
12月14日	テーマ賞発表
2018年2月7日	提案最終審査・結果発表・表彰式

■審査委員

廣田尚子	有限会社ヒロタデザインスタジオ 代表（審査委員長）
金谷 勉	有限会社セメントプロデュースデザイン 代表取締役
川田誠一	産業技術大学院大学 学長
澤田且成	アイディーテンジャパン株式会社 代表取締役社長 CEO
服部滋樹	デコラティブモードナンバースリー 代表取締役
日高一樹	日高国際特許事務所 所長

■最優秀賞・テーマ賞

提案：ユーザーが生地をカスタマイズできるパターンシート 榎原美歩（株式会社GoodTheWha）

テーマ：あらゆる生地素材にアイロン無しで貼れる「特殊転写技術」 株式会社扶桑

■優秀賞・テーマ賞

提案：プログラミング思考×パズル 未来を広げる知育玩具 松岡湧紀、青井正仁、榛葉幸哉、西畠勇氣（電通アイソバー株式会社）

テーマ：高品質・高技術の純国産「ジグソーパズル製造技術」 株式会社やのまん

提案：新しい機能性を持たせた「光る発泡スチロール」 榎本大輔、横山織恵（hitoe）

テーマ：98%の空気で作る機能性エコ素材「発泡スチロール成形技術」 株式会社石山



ユーザーが生地をカスタマイズできるパターンシート



プログラミング思考×パズル



新しい機能性を持たせた「光る発泡スチロール」

デザインコンサルティング講座

東京都が主催する「TOKYO DESIGN EXERCISE」は、中小企業とデザイナーが、効果的にデザイン開発を行うのに有用な知識の幅や視野を広げることを目的とした講座である。

2017年度は、東京ビジネスデザインアワードの特別講義として、企画から商品開発、マーケティング、広報活動まで、新しい事業作りのプロセスをテーマに、現場の最前線で分野横断的に活躍している講師を招き、中小企業とデザイナーとが、より良い協業について考える連続セミナーを6回にわたり実施した。

第1回 2018年3月12日「ブランディングと海外販路について」

澤田且成（アイディーテンジャパン株式会社 代表取締役社長 CEO）

第2回 3月13日「デザインと製造業との次の協業のあり方」

金谷 勉（有限会社セメントプロデュースデザイン 代表取締役）

第3回 3月15日「魅力を伝えるPR」

松矢英恵（フリーランスPRプランナー）

第4回 3月19日「中小企業とデザイナーのコミュニケーションのとり方」

辰野しずか（株式会社Shizuka Tatsuno Studio 代表取締役）

第5回 3月20日「ビジネスとして起動させるためのデザインアプローチ」

今井裕平（kenma Inc. 代表）

第6回 3月22日「フリーランスデザイナーの自己分析と仕組みの作り方」

原田 元輝（株式会社TANT 代表取締役）



地方創生・地域づくりデザインプロジェクト

現在、地方においては、地域資源を活用したオリジナリティのある商品やサービスを創出すること、地域の魅力をアピールし外から観光に来てもらうこと、そして住民が地域でいきいきと働くことのできる環境づくりが重要な課題となっている。本プロジェクトは、地域密着型の金融機関である信用金庫と当会が連携し、自治体ならびにその地域の事業者の新規事業をビジネス面、デザイン面の両方からバックアップすることにより、地域がデザインを活用して成長するための地盤づくりを行うものである。また、デザイン開発には地域のデザイナーを起用することにより、地域でのデザイン活用の推進と継続的な関係づくりを目指している。



西和賀デザインプロジェクト「ユキノチカラ」

岩手と秋田の県境に位置する岩手県西和賀町は奥羽山脈に囲まれ県内でも随一の豪雪地帯として知られている。住民にとってはネガティブに捉えられがちな雪を逆手にとって地域の魅力としていくことをコンセプトとして、2015年より町の事業者と県内デザイナーがタッグを組み、地域資源を活かした商品開発やツアーを行うことで町全体のPRをしてきた。3年間で12社24点44品目の商品を発売し、事業者の売り上げが増えるとともに地域の団結とやる気も高まった。



事業主体者：岩手県和賀郡西和賀町
実施者：西和賀町の事業者12社
商品およびブランドの企画・デザイン：岩手県在住のデザイナー6名
地域内調整、経営支援、販路拡大支援：北上信用金庫
協力機関：信金中央金庫、岩手県工業技術センター

高鍋デザインプロジェクト「まんぷく TAKANABE」

宮崎県の高鍋町は、海と山の恵みを受けた農業と商業の盛んな町である。ブランド名の「まんぷく」には、人の心を満たす食の提案として現代社会へのメッセージを込めた。2016年より町の事業者と宮崎県在住のデザイナーによるブランドづくりと商品開発を行い、2年間で17社が参加している。町内の販売拠点のほか、宮崎空港売店で販売を開始、県内や東京の商談会にも積極的に参加している。また広報活動として商品発表会や「まんぷく新聞」の町内全戸配布等を実施している。

事業主体者：宮崎県児湯郡高鍋町
実施者：高鍋町の事業者17社
商品およびブランドの企画・デザイン：宮崎県在住のデザイナー7名
地域内調整、経営支援、販路拡大支援：高鍋信用金庫
協力機関：信金中央金庫、宮崎県工業技術センター

事業構想大学院大学との連携

プロジェクトデザインで社会を変革する力を持った人材育成を目指す事業構想大学院大学との共同企画により、東京ミッドタウン・デザインハブにて企画展「地域×デザイン 2018 -まちとまちをつなぐプロジェクト-」の3回目を開催した。各地で行われている地域の特色を活かした取り組みのうち、特にデザインによって価値の転換を図り魅力に変えた10のプロジェクトを展示し、地域のキーマン約100名を招いたトークセッションを実施した。また、年間を通して月刊誌『事業構想』でも連携企画を展開した。

グッドデザイン賞受賞企業との連携

2016年より開始したグッドデザイン賞受賞者による相互研究会「グッドデザインラボ」の2回目を実施。近年グッドデザイン賞でも応募が増えているビジネス・サービスデザイン分野の昨年度受賞企業4社がメンバーとなり、互いのプロジェクトを発表し合うとともに、ビジネスデザインの視点からその評価ポイントを探った。2018年4月には成果発表会を公開で開催した。

参加企業：プラネット・テーブル株式会社、社会医療法人財団董仙会、ボッシュ株式会社、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社



東京藝術大学等との連携

地域社会における社会課題の解決をめざす活動を対象に、プロセスへのデザインの思考・手法の応用を促すとともに、具体的な実践の中からデザイン分野に活かす知見や方法論を見出すことを目的に、2016年度に東京藝術大学などとの共同プロジェクトとして開始した。これまでに各地の実践を対象とするアワードなどを行ってきたが、2018年2月に本活動の集大成的なプログラムとしてシンポジウムを開催し、アワード大賞受賞者である奈良県の「あたつく協働組合」関係者など60名が参加。同組合の活動を通じて見出された成果や課題などを共有し発信した。

主催：Design@Communitiesコンソーシアム（東京藝術大学、Institute for Information Design Japan/IIDJ、日本デザイン振興会）



アーキテクト・スタジオ・ジャパンとの連携

日本最大級の建築家ネットワークであるアーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社と広報連携を開始した。同社加盟の全国の公務店や建築家のネットワークを活用し、各地での建築相談会や展示会、会員向け定期媒体で受賞建築家の紹介をするほか、グッドデザイン賞の開催告知などを行った。



平成29年度事業報告（総務関係）

1. 会務の実施（役員会等の開催）について

（1）評議員会

- ① 第18回：平成29年6月23日（金）15時30分～17時30分 カンファレンス・ルーム1
（東京ミッドタウン・タワー4階）

議題：平成28年度決算報告書（案）

理事の選任（改選期）（案）

報告事項：

平成28年度事業報告書、2017年度グッドデザイン賞応募状況等

- ② 第19回：平成30年3月13日（火）16時30分～18時00分 当会会議室

議題：平成30年度事業計画書（案）

平成30年度収支予算書（案）

定款の改定（案）

役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程改定（案）

役員退職手当支給基準に関する内規改定（案）

報告事項：

平成30年度グッドデザイン賞審査委員委嘱（案）並びにグッドデザイン・ロングライフ
デザイン賞審査委員委嘱

グッドデザイン賞審査委員会設置規程の改定及びグッドデザイン・ロングライフデザイン
賞審査委員会設置規程の改定

（2）理事会

- ① 第21回：平成29年6月6日（火）14時00分～15時30分 当会会議室

議題：平成28年度事業報告書（案）

平成28年度決算報告書（案）

評議員会の招集（案）

報告事項：

今年度のグッドデザイン賞事業現況、役員改選（案）、今後の役員会等スケジュール

- ② 第22回：平成29年6月23日（火）17時40分～18時00分 当会会議室

議題：代表理事及び常務理事の選定（案）（役員改選後最初の理事会）

グッドデザイン・フェロー称号の贈呈先（案）

- ③ 第23回：平成29年12月14日（木）16時30分～18時00分 当会会議室

議題：次期グッドデザイン賞審査委員長及び副委員長（案）

資産運用規程の改定（案）

報告事項:

平成 29 年度事業進捗等

④ 第 24 回:平成 30 年 3 月 1 日(木) 16 時 30 分-18 時 00 分 当会会議室

議題: 平成 30 年度事業計画書(案)

平成 30 年度収支予算書(案)

平成 30 年度グッドデザイン賞審査委嘱(案)並びにグッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱(案)

グッドデザイン賞審査委員会設置規程改定(案)

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員会設置規程改定(案)

評議員会の招集(案)

報告事項:

定款の改定(案)

役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程改定(案)

役員退職手当支給基準に関する内規改定(案)

(3)会計監査等

① 監事監査:平成 29 年 6 月 2 日(金)、5 日(月)

目的: 平成 28 年度事業報告書(案)

平成 28 年度決算報告書(案)

② 監査法人監査:新日本有限責任監査法人会計監査

(期末監査)

平成 29 年 5 月 13 日(土)、17 日(水)、18 日(木)、19 日(金)、29 日(月)、31 日(水)

当会会議室

目的:平成 28 年度決算処理

(期中監査)

平成 29 年 12 月 1 日(金)、4 日(月)、5 日(火)、8 日(金)、平成 30 年 2 月 8 日(木)、9 日(金)

当会会議室

目的: 平成 29 年度会計処理

2. 賛助会員の現状について

平成 29 年度末の賛助会員および情報会員数は 194。(会費は広く公益事業に役立てている。)

近年は、会員企業等の経費削減や組織改編により会員数が漸減傾向にあり、平成 29 年度は 9 団体より退会届が提出されたが、1 団体より新規加入の申し込みがあった。

3. 後援、協賛事業について

(1)平成 29 年度に当会が後援ならびに協賛、協力の名義を提供した外部企画：

55 団体延べ 63 件であり、当会は各地・各種の公益事業に広く協力している。

(2)供与先内訳：

自治体およびその関連機関 12 デザイン専門団体 7 業界団体 11 民間企業 12
教育機関 6 海外機関 1 賛助会員 1 任意団体 5

(3)事業内訳：

デザイン展 9 見本市 17 デザインコンペ 15 セミナー・ワークショップ等 22

4. グッドデザイン・フェローについて

(1)グッドデザイン・フェロー称号贈呈式の実施

日時：平成 29 年 12 月 7 日(木)15 時 00 分-17 時 00 分

※2017 年度グッドデザイン特別賞贈賞式内にて開催

場所：国際文化会館

(2)授与者

第 22 回理事会の議決により、下記 4 名に称号を贈呈。(敬称略)

難波和彦 / 福光松太郎 / Do Sung Chung / Jun Cai

5. 業務管理・調整について(規程、内規、業務調整等の実施)

(1)各種規程・内規等の新設及び改正

年月日	規程等	実施事項	概要
平成 29 年 12 月 14 日	資産運用規程	改定	円建債券、資産流動化商品の範囲を改定
平成 30 年 1 月 1 日	資産運用管理に関する内規	改定	資産運用規程の改定に伴う改定(普通預金口座の資金移動の承認者、理事長への報告情報の内容、等)
平成 30 年 3 月 1 日	グッドデザイン賞審査委員会設置規程	改正	賞の名称変更に伴う改正
平成 30 年 3 月 1 日	グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員会設置規程	改定	審査委員会の役割、規程変更の決議機関の改定
平成 30 年 3 月 13 日	定款	改定	実施事業の表現変更や関係法令変更に伴う改正
平成 30 年 3 月 13 日	役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程	改正	海外出張における日当支給の取扱い

年月日	規程等	実施事項	概要
平成 30 年 3 月 13 日	役員退職手当支給基準に関する内規	改正	支給基準の明確化

(2)各種業務調整

年月日	項目	実施事項	概要
平成 30 年 3 月 6 日	平成 29 年度末に向けての経理処理について	事務局長通達	決算に向けての経理処理留意事項

(3)その他

項目	概要
①職員給与のベースアップ(雇用契約更新時)	現下の雇用情勢に対応し全体的な給与ベースの見直しを実施。 労働契約法改正に対応した的確な雇用契約条件の徹底を図った。
②臨時職員採用の適正化	

6. 行政当局等による監査、立ち入り検査等について

内閣府(公益認定等委員会)立入検査

実施概要

- (1)検査日時:平成 29 年 12 月 20 日(終日)
- (2)検査場所:公益財団法人日本デザイン振興会本部
- (3)内閣府検査官:内閣府公益認定等委員会事務局兼大臣官房公益法人行政担当室
- (4)立入検査の目的
内閣総理大臣及び公益認定等委員会委員長の命による(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 27 条第 1 項及び第 59 条第 1 項の規定に基づく)立ち入り検査の実施。
- (5)改善指導に従わない場合には、「公益法人認定」の取り消し措置が取られる場合がある。

検査実施項目(主なもの)

- (1)会務の運営について(役員会の開催実績、議事録の整備、会務経費など)
- (2)役員について(役員の交代、選任の諸手続き、登記、役員報酬、役員経費など)
- (3)法人管理について(管理規程、公印管理、決裁規定等の整備、関連内規及び事務所関連設備(借館)などの実態)
- (4)事業実績等について(事業概要、事業契約書、規定との整合性など)
- (5)経理処理について(実態、収支報告等の法令との整合性など)

検査後の内閣府指摘事項

- (1)定款についての改定
- (2)役員報酬規程について内規を含め改定

上記の指摘事項については、役員会、評議員会の決議を経て改定を実施した。

7. 資産管理の現状

(1) 保有資産

一般投資有価証券は購入したが、基本財産・特定資産の内容に変更は無い。前年度に対し、基本財産・特定資産の評価額は微増、運用利息は微減であった。

(2) 基本財産・特定資産の構成割合と評価額・運用利息

	資産割合			評価額(円) (3.31.現在)	利息(円) (年間)
	預金	仕組債	国債・地方債・社債等		
H25 年度	41.7%	32.8%	25.5%	1,286,067,926	65,184,645
H26 年度	23.1%	22.7%	54.2%	1,425,831,488	53,357,547
H27 年度	0.1%	10.1%	89.8%	1,596,329,150	29,957,499
H28 年度	6.6%	10.5%	82.9%	1,524,701,370	23,128,455
H29 年度	6.5%	10.2%	83.3%	1,545,532,110	23,005,900

8. 海外におけるGマークの商標登録の現状

(1)「Gマーク」の商標登録は、海外においては 2011 年にWIPOによる一括出願を行い、中国(2014 年)、韓国(2012 年)、ドイツ(2012 年)の 3 カ国にて商標権を取得した。その後、事業の拡大とともに、シンガポール、タイ、香港、台湾の各国・地域へ出願し、商標権を取得している。

インドでは、インド商標法の規定により「Gマーク」を証明商標として 2014 年に出願したが、インドのWIPO加盟以前の承認は不可(印当局)として拒絶回答があり、現在、異議申し立て(覆審請求)を行い審査は継続中である。

(2)また、GDS事業の着手に伴い、香港、タイにおいて「Gマーク」と「GOOD DESIGN STORE」のロゴを組み合わせた商標を申請し、2015 年に香港(登録は申請時の 2014 年)、2017 年にタイ(登録は申請時の 2015 年)において商標権を取得した。

(3)中国における「Gマーク」の権利保有状況を補完するため、2015 年に「Gマーク」と「GOOD DESIGN AWARD」を組み合わせた商標を追加申請し、35 類の指定役務「広告」(登録は 2018 年)にて商標権を取得した。一方で、中国においては 2014 年に権利を取得した「Gマーク」に対し、3 年不使用の取消審判の請求を受け、これに反駁できず一部の物品等の商標権については断念した。